

## 本評価基準の特徴

経済同友会は、『21世紀宣言』（2000年12月発表）において、「市場の進化」というコンセプトを提唱し、「経済性」のみならず「社会性」「人間性」を含めた総合的な企業価値を評価するような市場の構築と、それに向けた企業の積極的なイニシアティブの発揮を求めました。

この「企業評価基準」は、経営者の立場から「市場の進化」のコンセプトを具体化するための新しい基準を提唱することを試みたものであり、以下のような特徴を持っています。

### (1) 経営者による自己評価のためのチェックリスト

経営者自身が社会の価値観（企業を評価する視点）の多様性やその変化に気づきながら、自社の取り組みの現状を評価するためのチェックリストです。

### (2) 目標をコミットメントとして示すためのツール

現状評価に加え、「成果」については目標を自主的に設定し、その達成への努力をコミットすることにより、具体的取り組みを促進するためのツールです。

### (3) ベストプラクティスを発掘・評価するためのツール

多くの第三者評価のように、特定の価値判断に基づいて一方的かつ画一的に評価するものではありません。各分野での企業行動に一定の枠をはめるものではなく、むしろ、各企業が多様な取り組みを行う中で、ベストプラクティスを発掘し、より評価していくためのツールです。したがって、各質問項目のウエイト付けや総合点によるランキングは行っていません。

### (4) 「リスク・マネジメント」と「ビジネス・ケース」に資する観点からつくられた設問項目

設問項目は、2つの観点からつくられています。第1は、リスク・マネジメントです。将来のリスクにつながるおそれのある問題を事前に把握し、迅速にその改善を図るとともに、社会の価値観と社内の価値観の間に重大な乖離が生じていないかを点検するものです。

第2は、ビジネス・ケースです。社会の価値観やニーズの変化をとらえ、それをいち早く価値創造や新しい市場の創造に結び付けていくことによって、企業の競争力強化と持続的発展につなげるものです。

### (5) 「形式」の有無よりも「機能」の有無を問う設問項目

ある目的を達成するために有効な仕組みの「形式」は、各企業の理念や特性に応じて多様であってしめるべきです。したがって、仕組みに関する設問では、ある特定の「形式」の有無（例：社外取締役はいるか）を問うのではなく、その「機能」（例：社外の視点を経営にとり入れる）の有無を問い、それが効果をあげているのであれば、具体的にどのような「形式」があるのかを回答していただく方法をとっています。

### (6) 常に「進化」していくツール

今後の展開としては、具体的な回答データを収集・分析し、ベストプラクティスの抽出・評価や、業種や規模別の平均像の分析を行うとともに、各方面からのご意見や社会ニーズの変化を反映させ、評価項目の見直しや方法論の精緻化を進めていく予定です。